

2月の予定		
1	木	
2	金	豆まき集会
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	E.E.
7	水	音楽・運動・茶道
8	木	
9	金	YY
10	土	
11	日	建国記念日
12	月	振替休日
13	火	(新入園児説明会)
14	水	音楽
15	木	1・2月生誕生会 (1月より振替)
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	YY
20	火	E.E.
21	水	音楽・運動・茶道
22	木	
23	金	お弁当の日(にじ組以上) ドッジボール交流@ きらら保育園(たいよう組)
24	土	
25	日	
26	月	進級・卒園写真撮影日
27	火	E.E.
28	水	音楽

3月の主な予定

- 1日(木) 3月生誕生会
ひな祭り集会
- 2日(金) 柔軟発表会【たいよう組】
- 10日(土) 卒園式
- 14日(水) お茶会【たいよう組】
- 16日(金) お別れパーティー
- 22日(木) お別れ遠足【うみ・たいよう】
お弁当の日
- 24日(土) 進級オリエンテーション
- 29～31日 特別保育(進級準備)

かのんだよい

平成30年

2月号

冷え込みの厳しい日が続き、雪も積もった1月でしたが、2月もまだまだ寒い日が続きそうですね。

さて、インフルエンザが猛威を振るっており、残念ながら園でも大流行しています。感染してしまったご家庭の方、受診後に園報告をしていただきありがとうございました。園として正確な感染状況を把握することができ、区役所保健センターとの連携もスムーズにとることができました。お休みと登園許可証明書のご提出もありがとうございます。また、自主的な早お迎え・登園控えなどにご協力していただいた保護者の方々にも感謝申し上げます。

ご迷惑おかけして申し訳ございませんでした。感染症については園としても様々な対策をしておりましたが、今回の件も「集団生活だから仕方がない」ではなく、さらなる対策を課題にしていきたいと思えます。

卒園・進級写真撮影

2月26日(月)

今年も「はい！チーズ」のカメラマン撮影となります。
9時30分からクラス毎に撮影致します。お休みされますと写真に入れなくなりますのでご注意ください。

※【たいよう組】⇒卒園式の制服を着用しての撮影となります。

2月19日(月)に、紙袋(名前記載)に入れてご持参下さい。靴下も忘れずにお入れください。

卒園式当日は、園で子どもたちの胸に記章を付けさせていただきますので、胸にコサージュなどの飾りがあると支障が出てまいります。ご配慮頂けますようお願い致します。

卒園式 3月10日(土)

3月10日は、卒園式となります。職員みんなで卒園をお祝いしたいと思いますので、家庭保育のご協力をお願いします。どうしても土曜保育が必要な方は、園長までご相談下さい。

たいよう組 柔軟発表会・お茶会

たいよう組の保護者の方に平日ではありますが、3月の練習日に発表の時間を設けたいと思います。都合を付けられる方は是非おいで下さい。(詳細は別途おたよりをご参照下さい。)

柔軟発表会 → 3月 2日(金) 15時～16時頃

茶道おもてなし → 3月14日(水) 10時～11時30分

年度末特別保育について 3月29～31日

3月29～31日は、進級準備のため特別保育になります。ただし、今回の特別保育については、保育利用の場合でも申請は不要です。

育休中のご家庭、お仕事のご都合がつくご家庭は、お休みのご協力をお願いいたします。

注意とお願い

◆ バレンタインデーの贈り物

2月14日のバレンタインデーが近づいています。コミュニケーションづくりにはよさそうですが、トラブルのもとになりますので、園でのやり取りはしないようお願いいたします。下駄箱でのやりとりもおやめください(特に食品類は小さい子やアレルギー児にとって大変危険です)。

多くの保護者の皆さまから下記内容についてご理解とご寛容をいただいております。未熟な園であること、また失礼は承知の上ですが、再度ご案内させていただくことをお許しください。

ケガについて【かのん保育園 重要事項説明書・園ガイドより抜粋。一部加筆と追記あり】

子どもがケガをしないように常時見張っていることは、本来、保育士の仕事ではありません。保育士の仕事とは、子どもが関わり合いながら、保育士とも関わり合いながら育っていくのを支えることです。ですから、残念ながら保育園でのケガはあり得ます。ただし、「深刻なケガ」や「子どもの命にかかわる問題」はあってはなりません。これを防ぐことは保育士の仕事ですから、十分に注意していきます。

しかし、そうでないケガ（深刻でないケガ）は、保護者の方にも寛大に対応して下さるようお願いします。

特に保育園は集団生活ですから、子ども同士が近しく関わりあう場所でもあります。ケンカでのケガもあるでしょうし、（気を付けてはいますが）保育士が気づかぬ間にケガもあるかもしれません。保護者の方たちが納得できないこともあるかもしれません。

それでも「ケガをしながら育つ」ということは大事だと思います。しかしそれは「健全な育ちのためには小さいケガはすべき」ということではありません。「子どもがする必要のないケガ」はできる限りさせない努力をします。「命を守る」取り組みもします。けれども、成長発達に合った活動、子どもの育ちにとって必要な活動によって起こるケガについては、育ちにとって必要なこととしてご理解をお願いしたいと考えます。また、ケガが「経験」として健全な育ち・学びにつながるのであれば、その場合もケガは大事なことだと思うのです。例えば、ケガの直前（原因）には、「部屋の中を走っていたらぶつかった」、「お友だちの玩具を取ったらぶたれた」、「お友だちに嫌な言葉を言ったらひっかかれた」等、物事の因果関係・人間関係の結末を知る上で大事な経験があったかもしれません（もちろん、全てが良い経験とは言いません）。これらの経験すべてを摘み取ることは、子どものためにも、園の方針としても、違うのかなと思っています（…とはいっても、保育中のケガはゼロになるよう、ケンカでケガをしないよう、常々切望し、努力しているのですが）。

「うちの子に傷一つつけてくれるな」というような要望に応えることはできませんが、「子どもはケガをしてもしょうがない」という意識は、少なくとも私たち保育士側が持っていていい意識ではないと思って保育をしています。

追記：「手を出した方が問答無用で悪い」「先に手を出した方が悪い（だからうちの子には『とにかく先に手を出すな』と教える）。」、このような認識を強く持っておられる保護者の方もいらっしゃるかもしれません。たしかにその通りなのですが、子どもたちに対してこれを絶対の基準にすることについては疑問です。言葉を獲得する時期、そしてまさに価値観を構築していく時期において、「手を出さない限り何を言ってもいい、何をしてもいい」という土台を作りかねません。もちろん暴力行為はいけません。しかし、肉親以外との人間関係を構築していく一番最初の時期から「自分がしたこと（相手に嫌なことをした、言った、いじわるをした等）」をぼやかして「相手の暴力行為」という面ばかりをクローズアップしてしまうと（それも大人の介入によって）、被害者意識ばかりが育ち、自分のしたことを反省する機会を失い続けてしまう子になってしまいます。

平成27年かのんだより12月号 【再掲・抜粋】

横浜市では待機児童対策により、多くの新しい保育園が設立されました。保護者の方にとっても、保育園の選択肢が大幅に増えたといってもいいと思います。かのんでも来年度入園検討のための見学者が大勢いらっしゃいました。案内しながら話を聞いてみると、保育園選びの判断材料もそれぞれ様々です。中には「かのんの保育を受けさせたいから」という方も少なからずいらっしゃり、嬉しい限りです。

保育園は、方針・考え方によって、その特色は本当に様々です。かのんは、どちらかと言えば特色の濃い（クセのある？）園なのかなと思います。それでも多くの在園の保護者の方から「かのんでよかった」と保育を認めていただいたり、温かい励ましの言葉をいただくこともあり、本当に有り難く思っています。もちろん良い所だけではなく、足りない所、至らない所、それを私たちが自覚している所、していない所、多々あると思います。この点はどんどん改善していきたいですし、皆様からも遠慮なくご意見をいただけたらと思っています。

そこで、至らない点は改善していくということをお約束した上で一つお願いしたいことは、「園の方針・考え方に共感した上で、園・職員を信用・信頼して子どもを預けていただきたい」、これに尽きます。誤解や園のミスにより、その保護者のかのんに対する信頼が失われていることは大変悲しいことです。この場合、誤解を解くことやミスの再発防止策を講じることは園として当然させていただきます。

しかし、そもそも「園の方針・考え方に共感できない、疑問を覚える」「園・職員を信用できない」とお考えの保護者の方へ。そのスタートは園側のミスや誤解に基づくものだったのかもしれませんが、もう何年間も変わらずにそう感じているのであれば、これはもう根本的な問題でありますから、親としてその園に子どもを預けてはならないと思います。これはもう「改善して下さい」「改善します」というレベルを超えているからです。おそらく園がなすこと・なさぬこと、そして全ての結末が「悪」に見えてしまうことでしょう。改善すべきものはしますが、「信用している上で意見・苦情を言う」のとは違い、「信用していないから意見・苦情を言う」のはお互いに不毛です（∵「信用していない上での意見・苦情」では園の考えが変わることはありませんし、対応もできません。逆に保育は委縮し、職員も疲弊しますので、双方に未来はありません）。

在園児の保護者の方でそう感じている方がいらっしゃいましたら、数ある選択肢を見直していただき、もう一度慎重にご検討下さい（もちろんそう簡単に転園できないことは承知していますし、ご事情もおありかと思いますが、それでも選択肢は「かのん」だけではないと思います）。

園長 森田